



鈴蘭台駅周辺整備を考える会

発行 平成6年9月21日 編集 鈴蘭台駅周辺整備を考える会事務局



様変わりしつつある周辺地域の状況から 明日の鈴蘭台を考察する

昭和3年11月28日の神戸電鉄有馬線の開通と、小部駅（現「鈴蘭台駅」）が設置、そして同13年1月28日の三木線の開通により、鈴蘭台は分岐駅として神戸市北部の交通の要衝となり、町の将来を約束されました。

その後、関西の軽井沢といわれた鈴蘭台は、昭和30年代後半から周辺部の宅地化が急速に行われます。現在、本区と称される地域ではこれまで、大規模開発（面積10ha以上）のみを促しても面積約950ha、計画人口で約28,000戸、約12万人の規模で地域開発が進みました。

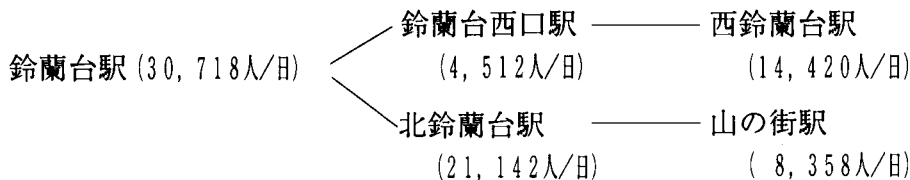
様変わりしつつある周辺地域の状況から、今一度、鈴蘭台の将来のあり方、課題等を整理しておく必要があります。このため、「考える会」では周辺地域の現況を様々な角度から点検し、現在鈴蘭台がおかれている状況について考察してみました。

1 交通条件

(1) 鉄軌道

大量輸送交通である神戸電鉄の周辺駅の利用状況からみて、鈴蘭台駅の乗降者数は優位を占めているが、頭打ちの傾向にある。

<平成4年11月調査>



(2) バス交通

駅前ターミナル及び道路の整備状況から谷上駅が優位に立ちつつある。

◆ 鈴蘭台駅

<発便> 神戸駅行、谷上駅行 <経由便> 西鈴～社会保険中央病院行

◆ 西鈴蘭台駅

<発便> 神戸駅行、星和台行、社会保険中央病院行

◆ 北鈴蘭台駅

<経由便> 泉台7～社会保険中央病院行

◆ 山の街駅

<発便> 築紫が丘行

◆ 箕谷駅

<発便> 三宮行、衝原行 <経由便> 谷上～神戸駅行、神戸北町～三宮行

◆ 谷上駅

<発便> 神戸駅行、神戸北町行、鈴蘭台駅行、築紫が丘行
<経由便> 有馬町～三宮行、三田～三宮行、篠山～三宮行

